

2016年12月22日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、緩やかに回復している。

輸出は、緩やかに増加している。設備投資は、増加基調にある。個人消費は、一部に弱めの動きもみられるが、雇用・所得環境が改善するもとで、底堅く推移している。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、下げ止まっている。以上の内外需要を反映して、生産は、緩やかに増加している。この間、企業の業況感は、幾分改善している。

先行きの景気を巡るリスク要因としては、海外経済や国際金融市場の動向などが挙げられる。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、下げ止まっている。

輸出は、緩やかに増加している。

設備投資は、増加基調にある。

個人消費は、一部に弱めの動きもみられるが、雇用・所得環境が改善するもとで、底堅く推移している。

百貨店販売額は、高額品販売を中心に弱めの動きがみられる。スーパー販売額は、横ばい圏内の動きとなっている。家電販売額は、白物家電の販売が増加しているが、全体としては改善の動きは鈍い。旅行取扱額は、弱めの動きとなっている。一方、乗用車販売は、新型車投入効果もあって持ち直している。外食売上高は、堅調に推移している。

住宅投資は、持ち直している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、緩やかに増加している。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械や輸送機械が増加している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得動向をみると、雇用者数が増加し、労働需給が改善を続けるもとで、名目賃金も振れを伴いつつ緩やかに上昇している。このため、雇用者所得は改善している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年並みで推移している。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金を中心に増加している。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に前年を上回っている。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上